

## ススキノはサタデイ・ナイト・フィーバー

1977年8月、札幌のススキノはサタデイ・ナイト・フィーバーの真っ盛りであった。夏合宿のあと西口と任意引退選手の馬鹿野と共にしばしフリーランをして、いよいよ内地に帰る前の晩であった。夜のススキノは新宿の歌舞伎町も真っ青である。歌舞伎町なんて5分も歩けば通り抜けてしまうのにススキノはやっと中心街にたどりつく。十階建てのビルが全館飲み屋というのも珍しくなく、人は道路にあふれている。どこからともなくディスコサウンドが流れて来る。ところがキッとすごいのがアメリカン・グラズナーバリの暴走族。信号無視、スピードオーバーはまたしき交差点でぐるぐる回り出すのには驚いた。バトカーのいる前で堂々とやるのである。バトカーの方もおっとりしたもので、なぜかつかまえようとしない。というよりも指をくわえて見ているという感じだ。なにしろこういう光景があっちこちであるのだからどうしようもない。次の日の昼にまたススキノに行ってみたが、ようするに日曜日の盛り場といったところか。歩行者天国にはいろいろな催しをやっていて家族連れがたくさん歩いている。交差点にはぐるぐるとタイヤの跡がついていた。つれものどもが夢のあととはこういうものかも知れない。

しわくにお